

# マネージメント情報

## ※ 韓国の肉牛(韓牛)事情

今回は視点を改めて韓国の肉牛事情について紹介します。

先日、富士平工業の方から韓牛の肉質のブランド化が進んでいるという話を聞きました。富士平工業は現在繁殖検診で使用している超音波診断装置を販売している会社で、屠殺前の生体でも超音波装置を利用することで枝肉(産肉能力)の判定ができる製品(超音波肉質診断装置:スーパーアイミート)を販売しています。

昨年秋にこの製品の講習会を宮崎県で開催したところ、韓国から120名の申込みがあったということでした。(結局、昨年のウオン安の影響で40名の参加だったそうです)

その一番の理由は、韓米自由貿易協定(FTA)が、2007年4月1日に合意されたことで、牛肉は15年、冷蔵豚肉は10年をかけて段階的に関税が撤廃されることとなっているからです。このようなFTAをはじめとする市場開放政策の中で、韓国では輸入農産物に対抗するため国産農産物の差別化(ブランド化)が推進されているということです。

この場合の差別化というのは和牛の肉質に近いサシの入る韓牛を選抜し改良していくということで、日本にも安い良質の韓牛が輸入される可能性が高いということになりますし、ましてや大手スーパーや外食産業などが飛びつくことは十分に想像できます。

あるいは和牛に近い肉質の韓牛がアメリカに輸出されて回りまわって日本に入ってくるということにもなりかねません。

日本がFTAやWTOの批准に抵抗している間に、お隣の韓国に追い越されてしまうということもあるということです。

現在の韓牛の頭数は220万頭(H20年度)、数年で300万頭に増加するとも言われています。人口5,000万人の国(1億3,000万人の38.5%)でこの頭数にも驚かされてしまいます。

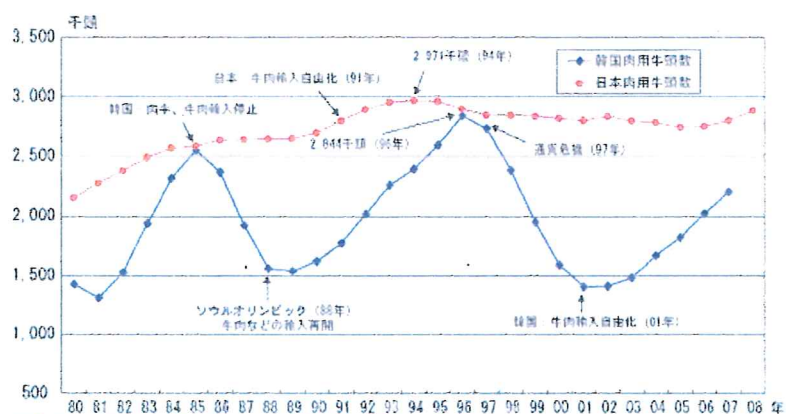
表1 牛飼養頭数の推移

	肉用牛 合計	韓牛	うち韓牛 雌(妊娠 可能牛)	乳おす	乳用牛	うち妊娠 可能牛
1990	1,622				504	
1991	1,773				496	
1992	2,019				508	
1993	2,260				553	
1994	2,393				552	
1995	2,594				553	
1996	2,844				552	
1997	2,735				544	
1998	2,383				539	
1999	1,952		854		535	364
2000	1,590		687		544	372
2001	1,406		613		548	378
2002	1,410		605		544	369
2003	1,480	1,277	622	203	519	356
2004	1,666	1,473	705	193	497	342
2005	1,819	1,633	777	185	479	328
2006	2,020	1,841	871	178	464	319
2007	2,201	2,034	941	167	453	310

(単位千頭)

資料：韓国農林水産食品部「畜産統計」  
注：各年12月1日現在

図1 日韓の肉用牛飼養頭数推移



資料：韓国 農林水産食品部「畜産統計」、日本 農林水産省「畜産統計」  
注：韓国は各年12月1日現在、日本は各年2月1日現在